



# 世界に誇る生きた芸術を残したい

土池博明さん(北山町)

2月7日(日)から大倉公園で開催される大府盆梅展に長年作品を出展している市盆栽会の土池博明さん。大府盆梅展の特徴について「ほとんどの盆梅が盆栽仕立てで造られています。盆栽仕立てとは、生きた樹木を素材として作者の主観によって自然美や造形美を表現したものです。針金を使って枝を曲げたり、枝を剪定したりして自分色に仕立てあげます。ぜひ鑑賞される時は座って、その美しさを間近で感じてみてください」と語ります。土池さんは今年5鉢の作品を出展する予定で「盆梅展に向けて開花の調整をするのに毎年苦労しますが、たくさん育ててきた盆梅の中から、姿・形や根張り、立ち上がりなどのいいものを選びました。枝ぶりや花の美しさだけでなく、鉢や台との調和も感じてほしいです」と大切に仕立ててきた盆梅の魅力を話します。

土池さんが盆栽を始めたのは定年退職してからで、「もともと庭木が好きで盆栽にも興味があったので定年退職を機に興味として始めました。仲間が続けることができなくなった盆栽が私のところに集まってきて、今では庭一面に盆栽が並んでいますよ(笑)」と話します。盆栽を始めると20年が経っている土池さんですが、今でも育てることが難しいそうで、「盆栽も生き物なので全てが同じようにうま

くいくとは限らないですね。枯らしてしまわないように日頃の管理を怠りません。根詰まりを防ぐための植え替えや花芽がしっかりとつくような剪定、虫がつかないための消毒などそれぞれの木の特徴を見極めて、丁寧に手入れをして育てています。水掛け一つにしても大変で、私の場合たくさん盆栽を育てているので全てに水を掛けるのに何時間とかかっていますよ」と良い盆栽を育てるために行う日頃の努力が垣間見えます。

「盆梅の魅力は、梅の花や香り、そして姿・形です。また、梅は百花の魁さきがけと言われるようにあらゆる花の先頭を切つて咲き、春の訪れを告げてくれるということも魅力です」と話す土池さん。今後について「盆栽は、私にとって生きがいの一つであり、やりがいの一つです。これからも続けていき、日本の伝統文化を残していきたいです。90歳で続けている人もいますので私もまだまだ(笑)」と笑顔で話します。世界に誇る生きた芸術である盆栽。土池さんが大府盆梅展のために丹精込めて仕立てあげた盆梅の花の美しさや香りをぜひ楽しんでみてください。



▲昨年行われた盆梅展での土池さんの作品

cover

今回の表紙は、12月24日のクリスマスイブに行われた届け出挙式。森さん夫妻は、コロナ禍で挙式を諦めていたとのことで、やっと挙げることができました。このたびは、誠にありがとうございます。

